

「海の幸」レリーフ 久留米にも

青木繁の出身地 館山に続き

福岡県久留米市出身の洋画家・青木繁(1882～1911年)の代表作で、

国重要文化財「海の幸」のレリーフが同市内の青木繁旧居に設置され、29日、除幕式が行われた。「海の幸」に感銘を受けた韓国・光州市立美術館名誉館長の河正雄さん(76)(埼玉県川口市)が制作、寄贈した。旧居保存会は「青木が結んだ交流を大切にしたい」と話している。

レリーフはブロンズ製で、縦72センチ、横180センチ、厚さ4センチ、重さ75キログラム。計5枚制作されたうちの1枚で、これまでに韓国の美術館や「海の幸」が描かれた

館山市の小谷家住宅などに寄贈された。

除幕式には河さんのほか、レリーフの受け入れ窓口になったNPO法人「安房文化遺産フォーラム」館

山市)の愛沢伸雄代表や、久留米市の榎原利則市長が参加。河さんは「韓国と近い九州に設置できてうれしい。美術の交流を通じて日韓の新しい時代を迎えたい」と喜んだ。旧居保存会の荒木康博会長は「多くの方の支援で、すてきなレリーフを飾ることができた」と話していた。